

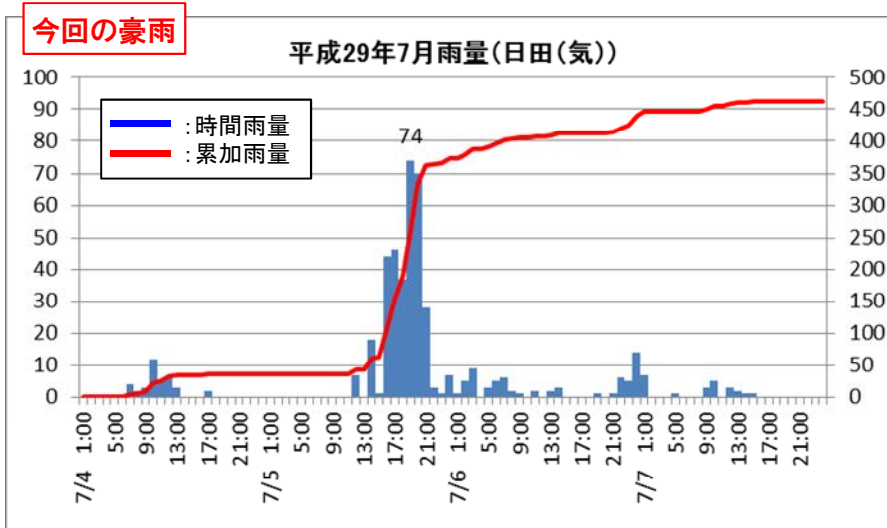
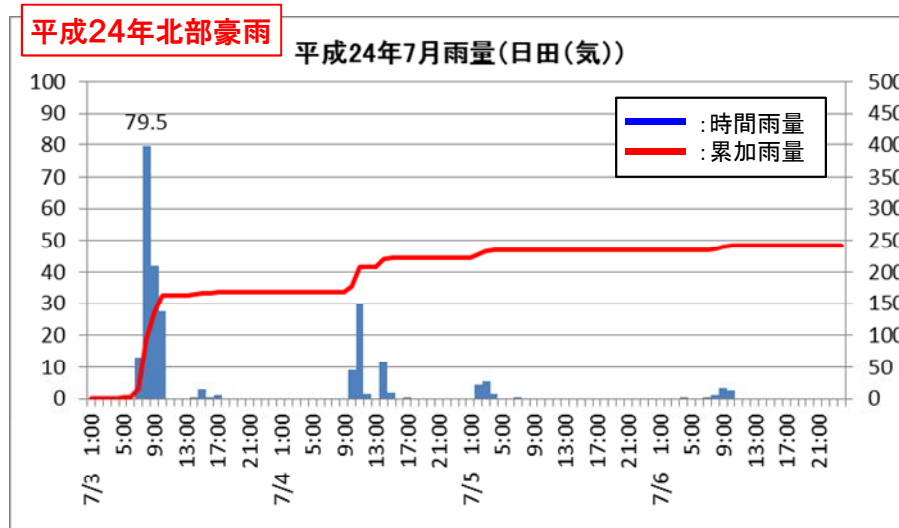
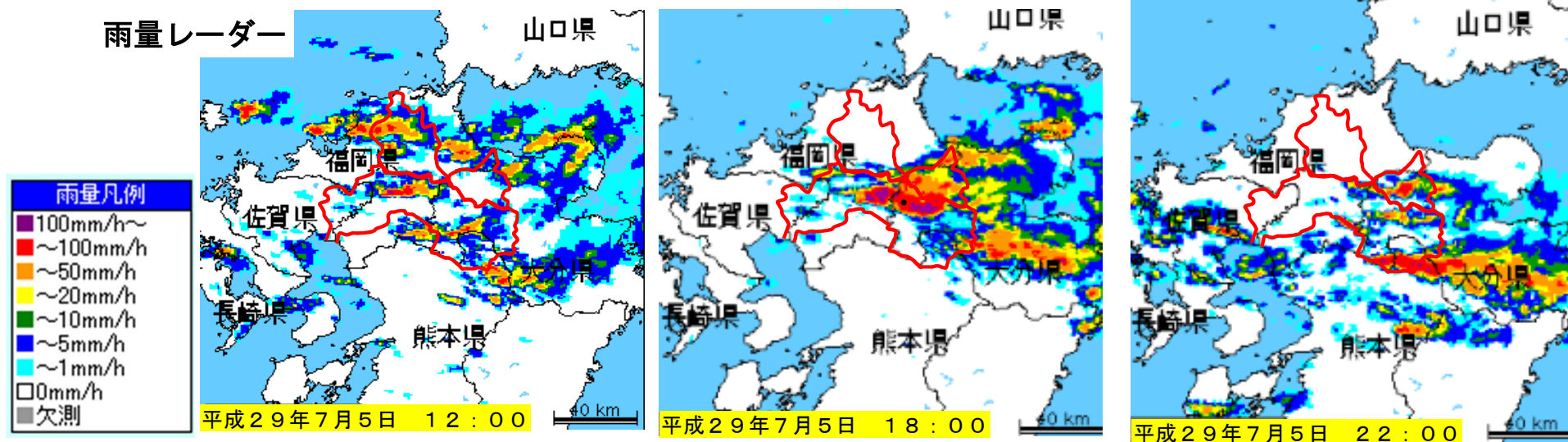
平成29年7月九州北部豪雨における 災害査定効率化等について



国土交通省 水管理・国土保全局 防災課

平成29年7月九州北部豪雨の概要(雨量)

○ 7月5日(水)の昼頃から夜にかけて、九州北部の福岡県から大分県にかけて強い雨域がかかり、短時間に記録的な雨量を観測。日田雨量観測所では、平成24年九州北部豪雨(7/3)の時と比べると、累加雨量は約2倍近く多い降雨量であった。



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成29年7月 出水の概要(河川水位)

○ 梅雨前線の活発な活動により、九州北部の3水系（遠賀川、筑後川、山国川）において
 氾濫危険水位を超える洪水が発生し、3観測所において観測史上最高水位を更新。

水位	水系名	河川名	観測所名	今回最高水位 (m)		観測史上最高水位	H29.7洪水
氾濫危険水位超過	遠賀川	彦山川	添田(そえだ)	5.68	7月5日 17:40	3.59(H17.9.6)※H24は欠測	溢水発生
	筑後川	花月川	花月(かげつ)	4.50	7月5日 19:50	4.37(H24.7.14)	溢水発生
	筑後川	筑後川	荒瀬(あらせ)	7.23	7月5日 21:10	7.35(H24.7.14)	
	筑後川	筑後川	片ノ瀬(かたのせ)	10.36	7月5日 22:20	10.07(H24.7.14)	
	筑後川	筑後川	杖立(つえたて)	6.74	7月5日 24:00	9.36(H2.7.2)	
	山国川	山国川	柿坂(かきさか)	6.89	7月5日 20:50	8.41(H24.7.14)	溢水発生



平成29年7月九州北部豪雨の被害状況

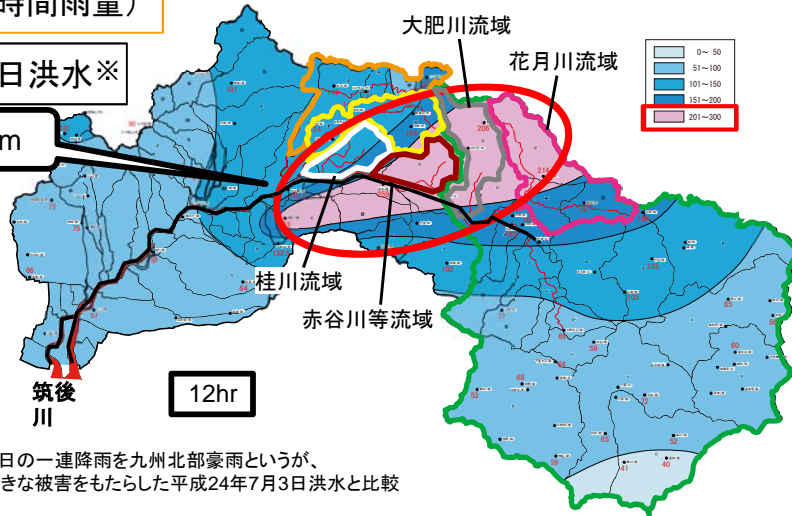
○平成29年7月九州北部豪雨では、記録的な大雨により浸水や山腹崩壊が発生。河川のはん濫、大量の土砂や流木の流出等により、死者37名、行方不明者4名、家屋の全半壊等1,483棟の甚大な被害が発生。(消防庁11月2日時点)

等雨量線図(12時間雨量)

平成24年7月3日洪水※

200~300mm

- : 小石原川流域
- : 佐田川流域
- : 大肥川流域
- : 花月川流域
- 白枠: 桂川流域
- : 赤谷川等流域

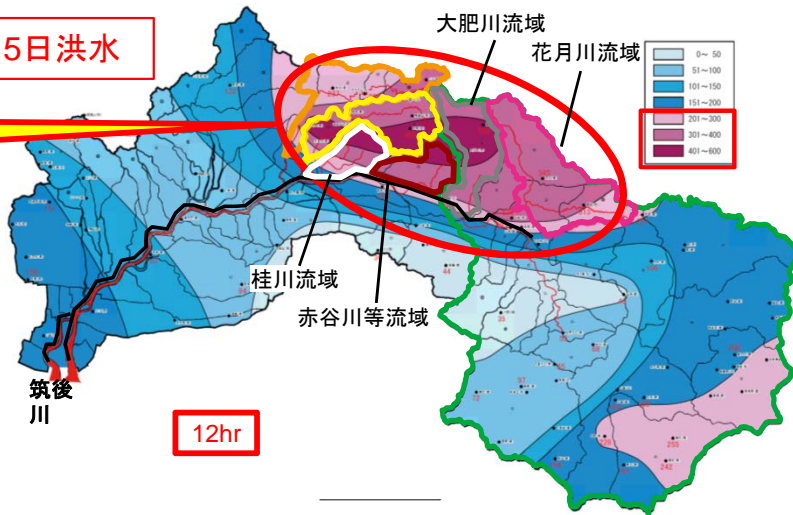


※平成24年7月11~14日の一連降雨を九州北部豪雨というが、ここでは、花月川に大きな被害をもたらした平成24年7月3日洪水と比較

平成29年7月5日洪水

300mm以上

- : 小石原川流域
- : 佐田川流域
- : 大肥川流域
- : 花月川流域
- 白枠: 桂川流域
- : 赤谷川等流域



項目	状況等
人的被害※	死者37名、行方不明者4名、負傷者28名
住家被害※	全壊309棟、半壊1,102棟、一部破損72棟、家屋浸水1,679棟

※ 消防庁「平成29年6月30日からの梅雨前線に伴う大雨及び台風第3号による被害状況及び消防機関等の対応状況等について」(11月2日17:00時点)より九州地方の被害を計上



流木による被害(赤谷川、小河内川合流付近) 福岡県朝倉市



大規模な地すべりによる河道閉塞(小野川) 大分県日田市



浸水の発生状況(彦山川) 福岡県添田町



土石流等の発生状況 福岡県東峰村

【災害査定効率化の主な実施内容】

○設計図書の簡素化

：設計図書の作成において航空写真や代表断面図等の活用により測量・設計期間を短縮

○書面による査定上限額の引き上げ (原則300万円)

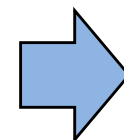
：会議室で書類のみで行う机上査定の対象限度額の引き上げにより査定期間を短縮

○現地で決定できる災害復旧事業費の金額の引き上げ (原則4億円)

：現地で決定できる災害復旧事業の金額の引き上げにより早期着手が可能

災害査定効率化(ex. 設計図書の簡素化)

- 平面図を既存地図や航空写真で作成可
- 被災状況写真を航空写真等で作成可
- 復旧計画図は標準断面図で作成可，等

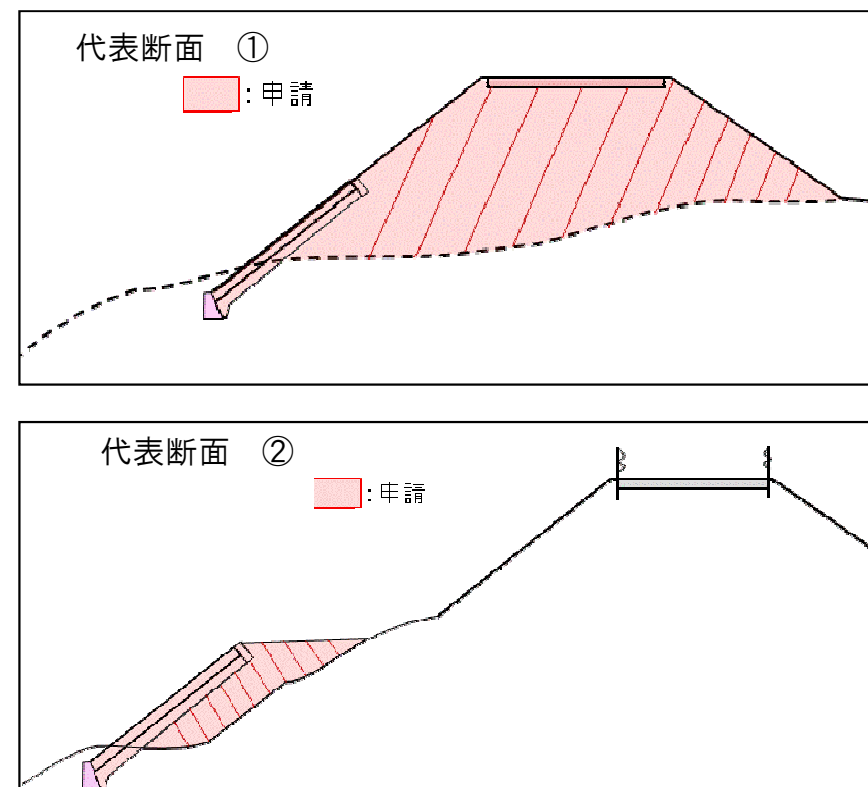


測量、写真撮影、設計
図面作成等の業務量を
縮減

(1) 平面図を航空写真で作成



(2) 復旧計画図を標準断面で作成



平成29年7月九州北部豪雨での災害査定の効率化

＜平成29年7月九州北部豪雨の概要＞

6月30日から7月10日にかけての24時間の最大雨量は、福岡県朝倉で545.5mm、長崎県芦辺で432.5mm、大分県日田で370.0mmとなるなど、九州北部地方で350mmを超える大雨となった。

特に7月5日からの梅雨前線に伴う九州北部地方の大雨により、出水や山腹崩壊が発生。河川のはん濫、大量の土砂や流木の流出等により、死者38名、家屋浸水2,169戸の甚大な被害が発生。

避難指示は最大で約16万世帯、避難勧告は最大で約7万世帯に発令された。またJR久大本線の花月川橋梁が流出するなどライフラインにも甚大な被害が発生。

降雨終息：7/10



早期局激（福岡県朝倉市、東峰村及び添田町、大分県日田市）の内閣府事前公表：7/21



災害査定効率化実施（記者発表）：7/25

※本格的な被災状況調査開始から概ね16日で災害査定効率化実施



平成29年7月25日
水管理・国土保全局 防災課

平成29年梅雨前線豪雨（平成29年7月九州北部豪雨含む）の災害復旧事業の災害査定の効率化について
～被災地の1日も早い復旧に向けて～

国土交通省では、平成29年梅雨前線豪雨による被災施設について、九州北部豪雨に見舞われた福岡県、大分県をはじめ、新潟県、石川県、広島県、長崎県の災害復旧事業の災害査定の事務手続きを迅速にする効率化を実施します。

※ 効率化により、被災自治体の査定に要する業務等が大幅に縮減し、被災地の早期復旧に貢献します。

- 書面による査定上限額の引き上げにより査定に要する時間や人員を大幅に縮減
 - ・書面による査定上限額を通常300万円未満から以下のとおり引き上げる。
福岡県：3,500万円以下 大分県：1,000万円以下 新潟県：1,000万円以下
石川県：800万円以下 広島県：700万円以下 長崎県：500万円以下
- 福岡県及び大分県において設計図書簡素化により早期の災害査定を実施
 - ・既存地図や航空写真、代表断面図を活用することで、測量・作図作業等を縮減する。
 - ・土砂崩落等により被災箇所へ近寄れない現場のある福岡県及び大分県において、航空写真等を用いることで、調査に要する時間を縮減する。
- 現地で決定できる災害復旧事業費の金額の引上げにより早期の災害復旧を実施
 - ・現地で決定できる災害復旧事業費の金額を通常4億円未満から6億円未満に引き上げる。
〔福岡県、大分県、新潟県、石川県、広島県、長崎県〕

問い合わせ先
国土交通省水管理・国土保全局 防災課
災害査定官 西 博之（内線35715）
基準係長 下條 康之（内線35773）
電 話 代 表 03-5253-8111
直 達 03-5253-8458
F A X 03-5253-1607

<国土交通省の取り組み> TEC - FORCEを被災地域へ速やかに派遣 国土交通省

- 7月5日（水）九州北部における記録的な大雨により、福岡県・大分県で甚大な被害が発生。
- 九州地方整備局は、一刻も早い被災状況の把握と災害復旧対策の技術的支援を行うため、朝倉市や東峰村、日田市などにTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）を派遣。



<国土交通省の取り組み>全国からTEC - FORCEが出発

- H29.7.7（金）全国から九州に集結したTEC-FORCEが、被災状況の迅速な把握や早期復旧に関する技術的な支援を行うため被災地に向け出発。



▲ 全国からTEC-FORCEが九州に集結



▲ 藤巻企画部長から被災状況を説明



▲ 増田局長からTEC-FORCEへの激励



▲ 被災地に向け出発するTEC-FORCE

- H29.7.7（金）大分県日田市小野地区で発生した斜面の崩壊を調査するため、九州地方整備局 TEC-FORCEのドローン飛行部隊を現地に派遣。



<国土交通省の取り組み> 堤防決壊箇所の被災状況調査と仮復旧工法検討

○ H29.7.6（木） TEC-FORCEが福岡県と合同で、朝倉市を流れる桂川の越水箇所と荷原川の堤防決壊箇所の被災状況調査や仮復旧工法を検討。

かつら

いないばる



▲ 朝倉県土整備事務所長との事前打合せ



▲ 福岡県と合同で被災調査



▲ 桂川の越水箇所の被災状況調査



▲ 荷原川の堤防決壊箇所の仮復旧工法の検討

<国土交通省の取り組み>堤防決壊箇所の緊急復旧

○ H29.7.14（金）決壊した荷原川（福岡県管理）の緊急復旧において、TEC-FORCEが調整し、九州地整の工事箇所から復旧資材を手配することで、早期に緊急復旧を完了。



▲ TEC-FORCEによる現地調査（7月7日）



▲ 24時間体制で緊急復旧を実施



▲ 近隣工事より迅速に復旧資材（土砂）を手配



▲ 早期に緊急復旧が完了（7月14日）

- H29.7.7（金）被災自治体の首長などに被災情報の提供や応急復旧に向けた技術支援を行うため、現地で活動するTEC-FORCE・リエゾンを統括する隊長として整備局の幹部職員を派遣。



<国土交通省の取り組み> 災害復旧事業等の適用拡充

筑後川では、平成29年7月九州北部豪雨により、福岡県から大分県にかけて短時間に記録的な雨量を記録し、筑後川右岸流域の桂川流域(福岡県)や大肥川(福岡県・大分県)等において、堤防決壊や河道埋塞により甚大な被害が発生。

災害査定 改良計画立案 (拡充)

- ① 大量の土砂等による埋塞が著しい施設について、「全損」として災害査定を実施。



地域の復旧・復興が迅速化

●災害査定が迅速化され、本格的な災害復旧事業に早期に着手できます。

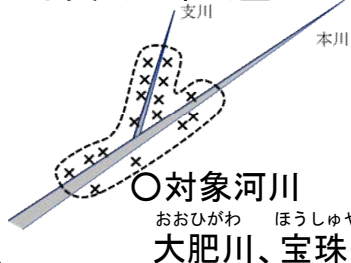
●改良復旧事業の計画検討に早期に取りかかることができます。

○対象河川
きたがわ しらきだにがわ あかたにがわ おとしがわ おおおやまがわ
 北川、白木谷川、赤谷川・乙石川・大山川等

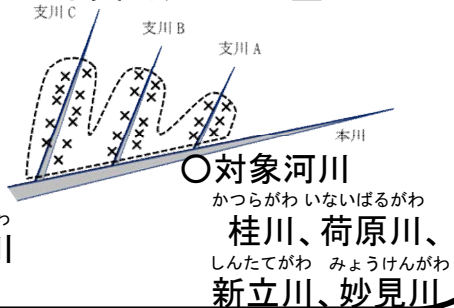
改良復旧事業の事業単位 (周知)

災害関連事業の事業計画の策定などにあたっては、十分な事業効果が発揮されるよう被害のあった複数の河川を1箇所の事業単位とすることができることを周知。

○支川+本川型



○支川グループ型



災害復旧事業(一定災)の適用 (拡充)

- ② 著しく被害を受けた一連区間について川幅を広げるなど一定の計画に基づいて行う災害復旧事業(一定災)を、土砂等により大きな被害を受けた今回の洪水対応に活用。

■洪水による河岸の決壊の場合が対象

従来



■河川埋塞の場合が対象

今回
(初めて適用)



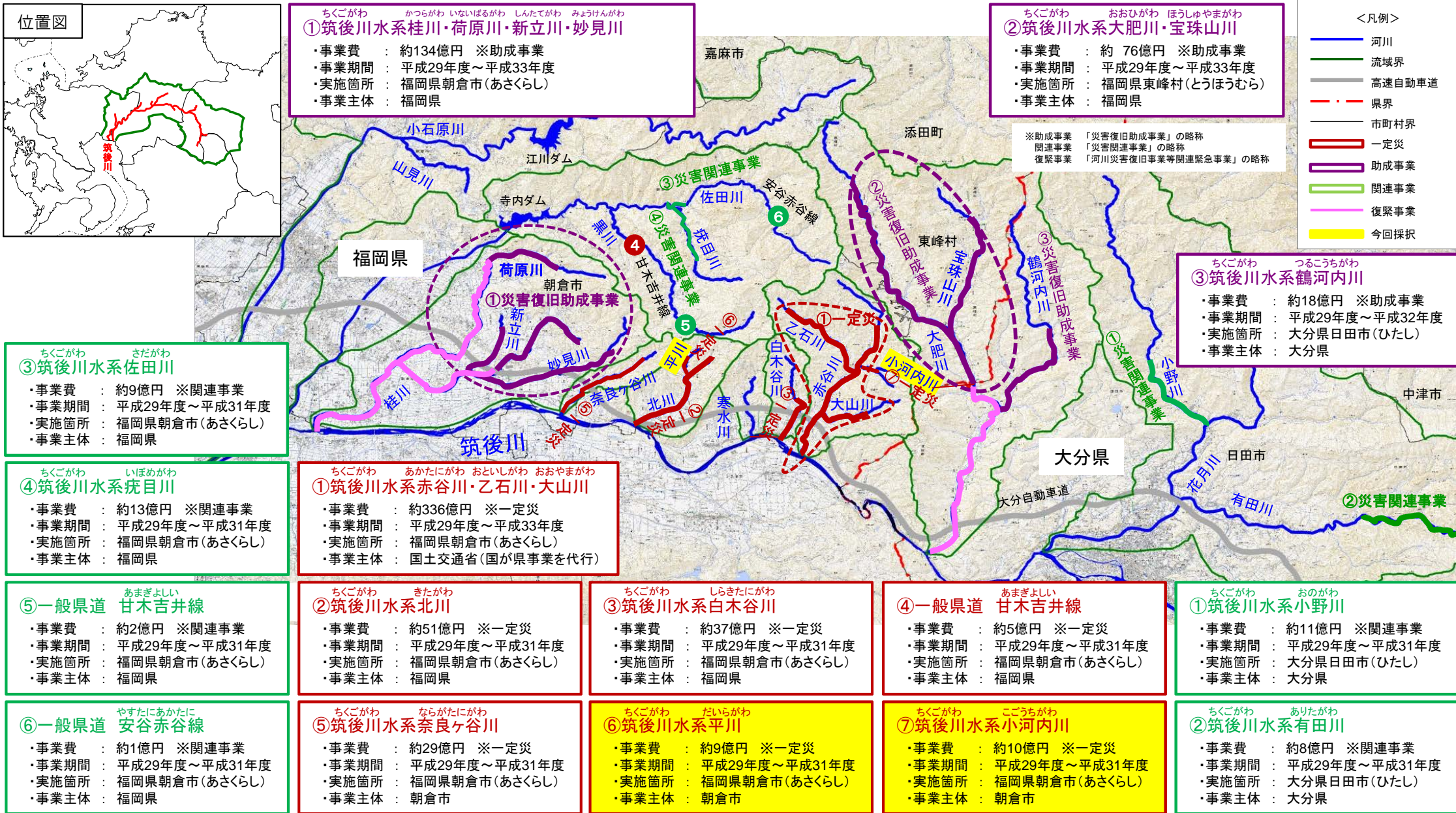
※一定災: 広範囲にわたって被災し、その被災の程度が激甚であり、その被災施設を原形に復旧することが著しく不適当な場合において、当該災害を与えた洪水、高潮、波浪、地すべり、崩壊等を対象として被災後の状況に即応する被災箇所を含む区間全体にわたる一定計画のもとに施行する必要最小限度の工事



査定設計書の作成などの事務手続き及び地方負担が軽減

○対象河川
きたがわ しらきだにがわ あかたにがわ おとしがわ おおおやまがわ
 北川、白木谷川、赤谷川・乙石川・大山川

平成29年7月九州北部豪雨により、福岡県から大分県にかけて短時間に記録的な雨量を記録し、筑後川右岸流域の支川桂川流域や北川、白木谷川(福岡県)、大肥川(福岡県・大分県)等において、堤防決壊や河道埋塞により甚大な浸水被害が発生。
以下の河川・道路で、災害復旧事業(一定災)、災害復旧助成事業及び災害関連事業を実施。



平成29年に実施した災害査定効率化

平成29年は平成29年7月九州北部豪雨，平成29年6月7日から7月27日までの間の豪雨及び暴風雨，平成29年9月15日から9月19日までの間の暴風雨及び豪雨，平成29年10月21日から10月23日までの間の暴風雨において，効率化を実施

		通常	平成29年10月21日から10月23日までの間の暴風雨	平成29年9月15日から9月19日までの間の暴風雨及び豪雨	平成29年6月7日から7月27日までの間の豪雨及び暴風雨	平成29年梅雨前線豪雨等 (平成29年7月九州北部豪雨)
			奈良県・三重県・和歌山県・大阪府・新潟県・京都府・福井県・富山県	京都府・兵庫県・鳥取県・岡山県・香川県・愛媛県・大分県	秋田県	福岡県・大分県・新潟県・石川県・広島県・長崎県
効率化項目	設計図書の簡素化	—	奈良県・三重県・大阪府・福井県・和歌山県・富山県	大分県	秋田県	福岡県・大分県
	机上査定額	3百万円未満	(H29.11.17) 奈良県・三重県・和歌山県・大阪府・新潟県・京都府・福井県・富山県： 9百万円以下	(H29.10.10) 大分県【早局】： 1千万円以下 京都府【早局】・愛媛県： 9百万円以下 鳥取県： 8百万円以下 兵庫県・香川県： 6百万円以下 岡山県： 4百万円以下	(H29.8.22) 秋田県： 1千万円以下	(H29.7.25) 福岡県【早局】： 3千5百万円以下 大分県【早局】： 1千万円以下 新潟県： 1千万円以下 石川県： 8百万円以下 広島県： 7百万円以下 長崎県： 5百万円以下
	採択保留引上げ	4億円未満	—	—	6億円未満 ※九州北部と同様の扱い	6億円未満